



冬の夜空を飾る明るい星シリウス

冬の夜空を見ると明るい星が多いことがすぐにわかります。冬は空気が澄んでいるので星が明るく見えるだけでなく、本当に明るい星が多く輝いています。その中でもひとときわ明るく輝くのがおおいぬ座のシリウス(α CMa)です。明るさはマイナス 1.5 等です。これは、普通の 1 等星の 10 倍ほど明るい値です。

目立つ星であること、やや南(赤緯マイナス 17 度)にあるので、日本など北半球の中緯度の国からはからは、見える季節と見えない季節がはっきりしていることによって、地域によってさまざまな呼ばれ方をしました。

日本では、「おおぼし」、「あおぼし」が一般的です。明るいので大きく見える、青白い色に見える星と、理由が明確です。中国では、「天狼」または「天狼星」と呼ばれます。張衡(AD 78-139)という中国の後漢の時代の天文学者(占い師も兼ねていた)が「思玄賦」という書物でそう呼んだのが始まりとされています。凶暴な動物や盗賊の首領になぞらえたということのようですが、その蒼さが狼を連想させたのが永く現代まで伝わった理由でしょう。

シリウスという名はギリシャ語で「焼き焦がすもの」という意味があります。明るくキラキラ輝く様子が熱く感じられたのでしょうか。また、「巨星」とか「巨人」(大きいだけではなく偉大な人の意味)というような意味で使われることもあります。某プラネタリウムメーカーがフラッグシップ機に「シリウス」と名づけようとしたことがありましたが、実現しませんでした。でも、天文の世界ではシリウスという名が最も一般的です。プラネタリウムでの星空解説でも真っ先にこの名前が紹介されます。

アメリカでは Dog Star(犬の星)と言うことがあります。冬のシリウスは、大気の揺らぎのため、常にちらちら瞬いて見えます。この様子が、夏の暑い日(dog day というそうです)、犬がハアハアしている様子を思い浮かべるというのです。また、おおいぬ座の一番明るい星だからという理由もあります。こちらの方がしっくりきますね。2021 年 2 月 1 日記(解説員: 田部一志)

